



サカタニ友の会 ニュース

2017年ももうなら この月の豊国神社には、お

こんにちは

2018年

31日は 大晦日

明け

と元旦・新年になります。前年が、良
年、悪年だったとは無関係に、本年
とは、きょうならで去り、新年は、
もう直ぐ来ます。私の子供時代は、お
正月が待ち遠しく、もう、幾つ寝る
とお正月の歌を、良く歌ったもので
す。

幼児の頃から、祖父が天理教教会の
元旦祭にお参りする為、特別に早く
起され、家族や店の人達も全員、常
には使わない奥座敷に集り、新年の挨拶
明けましておめでとを言います。

の挨拶を交し、後、お雑煮を戴きま
す。町中は、普段と異なり、人通
りも少なく、シーンと静かで、何か日
頃と違う、厳かな雰囲気でした。

今は、有名社等の年始風景が、テレ
ビのお正月の特番で、大々的に、その
風景が放映され、溢れる程の人がお参
り姿が見えますが、本当に神様・仏様
等にお参りするのではなく、お正月ム
ドを楽しみたいが、目当ての様な気が
します。マアそれでもいいですが、が、相手
の神様は、そんな魂胆は、お見通し
でしょう。お願いが適う、適はないは神
様任せでなく、自らの勤勉、努力しか
無いと思います。デモやっぱり、初参り
は、前年の感謝と気持ちの切換えに
は、必要な事だと思つて、私は、氏神さ

参りし、ある誓いをします。

それは、毎朝、4時30分起床。乾布
摩擦・体操・入浴、その後、秘密の朝食。
6時30分出社・夕6時帰宅。夕食7
時、晩酌の酒は、300ml、限度で9時
就寝の生活を続ける事です。その
お陰で、持病は有りませんが、風邪も
挽かず、殆ど毎日、元気で勤務してい
ます。9月末決算も増益でした。

家内は、あんたは、仕事馬鹿症候群
という病氣と言ってますが、健康診断
の結果も、若干血圧が高い位で、目は
両眼1.5で健康体です。この入力も眼
鏡無しで打込できます。と、自慢し

たいのですが、最近、物忘れ
が多くなりました。昔のこ
とは、覚えていながら、先程
使つた「ん」を探すと、
再々、ヤッパリ歳には勝てん
のでしょうか。今号のと
んからりんのお届けが、大
幅に遅れました。ア、このペ
ージ下のどんつき欄で、
運配の失敗を、嘆きました
の。次号の元旦号は、鬼が笑つ
ても気分よく、書けると思っ
ています。その小算で、りで
見出しの「2018年の字」
を、大きく致しました。
ご投稿下さった方々には、

下の写真は、4代目現ビル化前の、我社三代の店舗の
写真：2面記載の「なんだ坂、こんな坂」の説明写真です。



写真：約100年の店の
変化の写真

写真説明 右上：祖父の時代
右下：父の代。酒卸業時代
左：私の酒の小売と
うどん屋の兼業時代

第3日曜開催日11月19日(定例：朝9時)

第154回：朝粥食べておシャベリ会

ご講演：佐々木正祥様(報告者) 山本知弘様



肉つた後、川
柳を一句読
んで下さり
ます。



ん、これからも、
わかりやすく仏
さまの教えをわ
れわれに説き続
けて欲しいと心
から思つた朝粥
会でした

本目のご講師は
真宗佛光寺・大善院住職
佐々木正祥さんです！
◎テーマ 出会いと環境が
人生を変える
今回の講師の佐々木さんは、
なんと、大善院の寺宝、カッパ
のミイラの手などで、となり
の人間国宝「さん」に認定され
ている方です。
佐々木さん、もともと檀家
さんで普通に説法をされてい
たそうですが、マンガを書いて
説法すると受けがよく、続け
ているうちに業界雑誌にコラ
ムを連載することになり、そ
の内容をまとめて自費出版さ
れたとのこと。この冊子も評
判よく、増刷されたそうです。
佐々木さんの絵解き説法は、
仏さまを題材にして、世相を
ちよつと皮
肉つた後、川
柳を一句読
んで下さり
ます。
ゆるキャラや歩きスマホ
などあらゆる世相をちよつと
皮肉つた説法は面白おかしく、
それでいて説法になつていて、
みんな佐々木さんの軽妙な語
り口に引き込まれてしまいま
した。特に印象に残つたのが、
老いの坂の説法でした。
老いの坂を逆走する絵で、い
わゆる「ナンチエイジング」です。
止められない老いを含めた
人生を楽しむという気持ち
大事なのではないか、との事
でした。川柳は、老いの坂、逆
走しても、末は坂「誰かが老い
ていきますが、それを楽しむ
気持ちで人生をより豊かに過
ごせるヒントになるのではない
かと思ひました。佐々木さ
ん、これからも、
わかりやすく仏
さまの教えをわ
れわれに説き続
けて欲しいと心
から思つた朝粥
会でした

毎月七日：恒例：
七条大橋を
キレイにする会

◎日時：一月七日(日)です

◎集合：七条大橋 東詰南

作業時間 219時〜10:30

◇掃除用具：手帚 雑巾・

小さいスコップ等は

各自ご持参等ご持参ください。

◇終了後 集西楽サカタニにて

小一時間程

お茶を飲み反省会

写真・毎回参加の

清掃協力中の

フリースパッドの

お大様です。

お大様です。



とんつき

今月号の

とんからりんお届けが大幅
に遅れた事をお詫言いたします。
自分では若い心算ですが、84
歳にもなると、能力低下は、避
けられない様です。

▼その上、本業が、酒屋とコン
ビで、年中無休24時間・店は
動いています。おまけに、根が
若干オツチヨチヨイな性格で、
2F「イベント」などに関わる事
も有り時間が足りません。

▼とんからりんも何度か発
行を止めとも思つたのですが、
そんな時に限つて、読者のお方
から読んでる「こ」のお声があ
り、内心ホッ！「か」なと思
いながらも続けて来しました。

▼そんなとんからりんです
が、ご投稿を頂戴している方々
は、その道で、著名な方々お方
も有つて、まあ、ど素人発行の
読み物としては、王方やと
勝手に決め続けられて来まし
た。

▼が、編集者の私、後期高齢
者の84歳。そこへ短気と思ひ
強い性格で、失敗も再々。そ
そそ発行を止めようかと思つ
ている頃。そこへ、この12月
号の単純ミスで、大遅配です。

▼社内でも大相談もして無く
て、今では、来年の3月号を以つ
て、発行を終にとも思つてもい
ます。が、サカタニ友の会には、
継続で、お知らせ「程度」の書面
は配布致す心算です。

▼只、心配は、止めるとボケが
強くないかです。書くことの
プレッシャーで、色々な事に注
目して過してききましたから。

▼発行中止は、未決定です。
読者やご投稿下さっている方々

なんた坂 こんな坂

14

早く、ご文を頂戴しながら、一週間余、発行送付が遅れました。誠に申し訳ありません。

お許しを。p.c.とプリンター故障も重なったのです。深謝しました。(一)向の(株)いづみ屋は、亡き親友の康ちゃんの独立後、父が山科で酒小売屋をする資金にと、東京の大手酒販店 東京麦酒販売(株)に経営を譲り、名も京阪麦酒(株)になっていた。過去の経緯もあり、私が、常務の(株)福井善四郎本店京都店(後福井京都店)で記すが商品の主力納入先だった。所が、2年後、親会社東京麦酒(株)が倒産。連鎖で、京阪麦酒も整理になった。債権者会議、過去の経緯から、私が、その会社整理の主任になり、幾度かの会合の末、私がお社毎買付ことを求められた。

が、その頃、福井本店京都店での報酬は、少なく抑えられていた。福井京都店から、何らかの機会が有れば、離れようと密かに決めていた。が、社会経験は、政治運動と酒屋しかない。政治は、既に六全協で離れていた。が、このチャンス逃したくない！と思った。が、私の我が預金は、低額報酬で雀の涙の極低額。家内に尋ねると、少額の預金があった。両方を合わせ、債権者団の提示額を値切れば、京阪麦酒(株)は、わが手に入る。家内の預金を強引に取り上げ、京阪麦酒(株)を何とか買った。暫くは、同社の古参社員 T さんと、もう一人の男子社員に協力を頼み、時期を見て、福井京都」を退

職し、その退職金で家内の金を返そうと思っていた。がそれは少し先だと思っていた。引き受けた会社は、それなりのお得意先も有り、成績はとんとンだった。ある時、福井京都の納入先、藤井大丸さんが「カナダ展」の資料集めを頼まれ、砂糖仕入先の大坂の丸紅食品部へ行った。が、ビルの周り、主婦連の女性で取り囲まれていた。商談の際、何で主婦連と尋ねた。

稲荷山 ぶらり散策記・ 越智薫史



深草坊町に深草山と号する日蓮宗の瑞光寺がある。元政庵」とも呼ばれている。竹藪を背にした茅葺屋根の本堂は深草一の風情がある。私はこの寺の風景が好きで散歩で良く立ち寄る。特に春、枝垂桜の咲くところは狭い境内ではあるが華やかである。堂内中央には日蓮上人直筆の大御本尊が祀られ、本仏釈迦如来坐像は胎内に添えた日護上人作の尊像がある。ただ近年、墓地造成のため竹藪がかなり切られて風情が

新嘗 たいも祭 石動敬子



新嘗 たいも祭、お火焚き、勤労感謝の日が済めば、もう年用意、新年を迎える準備という事になる。が、実は、十一月の下旬の紅葉こそが一番とかがね思ってた。十一月という六音のこの響きが何とあるか、これを秋というか、冬とも思うか。皆さんはきつ秋？俳句を始めて四半世紀。立冬の声を聞くと、もう「冬」と歳時記にもあり、ズシリと重い荷を背負わされた気分になる。北山時雨、熱燗、つわの花、山茶花、焚き火、木枯らし、千枚漬け、炬燵など大好きな冬の風物に心がはやるが、ニュースや新聞の催しでは決まって「秋の一日を」「秋の夜長を」などと月末まで報じられるから、ああ、やはり、一般社会では、大

少々心もとなくなっている。明治の東海道線工事で、北側の番神山古墳(前方後円墳)が削られ、この寺の境内が二分されたという。狭いはずである。この場所はずもともと極楽寺の薬師堂の跡である。応仁の乱に続いて天文法華の乱と戦乱に続いた時代に藤原基経が創建した極楽寺はずつかり消失していたという。明暦年間(1655~57)に元政上人(1623~67)が草庵を結んだのが始まり。元政は京都一条の生まれで彦根藩に仕え江戸勤務にもついていたが、26歳の時に京都に帰りかねてから望んでいた出家をしたという。

好きな秋を惜しむ感覚で、十一月いっぱいはほっこりしていたい、から気分は秋なのだろう。これは春も同様で、始まりはともかく、鯉のぼりのころは、もう夏なのだが、五月いっぱいは春というのが一般的なのだろう、春と秋を愛する日本人は、

詩歌にもすぐれ、熊沢蕃山、石川丈山などとも交友が深かった。本堂に掲げてある「寂音堂」の額は丈山の書といわれている。元政は、孝養心が篤く、親より早く死ぬことを最も不幸なことと考え、身の養生に心を砕いたという。両親の孝養のひとつに、夏場のやぶ蚊を追ひ払い涼しい風を送るために素型団扇を考案した。元政型深草団扇といわれ、深草うちわの発祥である。

た。ま、まさかこのわたしが、東京に？想定外だったが、貴方がそういわれるのなら、とうなずいた。十一月が、秋であるうが、冬であるうが、問題ではなかった。それからは百日以内にこの家を引き上げる準備にとりかかった。階段を上る度、下る度、何かを手に短期決戦の始末即旅支度である。捨てちゃえ捨てちゃえの大処分。さすがに、グランドピアノはどうするの。結論はかんたんには出そうにない。子供たちからの預かり物も返さねば、そうして、トラランク一つで春の旅に出ますよ。春？つて暦の上では、福は内鬼は外がすめばすぐですからね。寒いのが、冷たいとはゆうてられへん。サカタニさん、さんからりんのお蔭で、京暮らしはとても充実していました。自称押しかけエッセイストのハイジャックのこの欄もそろそろお返しせねば。おおきに、お騒がせしました。ますますのご発展ご活躍をお祈りいたします。おれにかえて。

元政の墓は遺言により境内に竹3本を植えただけの簡素な塚であり、近所の人は「本竹」と呼んでいる。今風に言えば「樹木葬」であろうか。小指くらいの細い竹3本が生えている。寛文8年(1668)、46歳の入寂、母妙種は前年寛文7年(1667)に亡くなっている。この墓は奈良線で二分されたおかげで線路の向こう側にあるが、最近、鉄道をくぐる地下道が通じ、安心して参拝できるところになっている。辞世の歌 鶯の山 常にすむてふ峯の月 かりにあらわれかりにかくれて 毎年3月18日には元政忌が行われ、おこなわれ遺宝展も開かれてい



※前号で「焼き鳥」紹介したが、団扇も

京都&東山
ぶらりピカリ

75

しちじょうとおり

七条通

とんから

地味だが京都の通り

京都市内で東西の通り

今、注目度

一番の通りは？

す。何故か！と更に聞かれたら、この通りには

伸びしろがまだまだあります。

今や三・四条は、伸び切ってます。

何処かが「潰れない」限り新店は出来しまへん。五条・お池は、車用には良いが生活道路には、向きどす。向側まで、声が届きますか。メガホンぶら下げて歩くなんて格好が悪すぎて、甲子園球場や有るまいし、エエ格好屋、お上品なお人が多い京都では出来ません。差はん溺まへん。七条通りの幅こそ最高どすなあ。

然も、この通りは、京阪電鉄、阪急(西京極)の「駅」が有る。こんな通りは、他に無いのです。其処に「由縁」が何時の間にか変わった



た今度 JR西日本 嵯峨野線一の京都駅と丹波口駅の中間の七条通りで七条通り跨いで「新駅」出来る。駅名は未決定募集されるにかも、ガチガ

チの「硬派だった国鉄さん」も

「JR」と横文字になると「軟派」

になるのですね。この駅が出来ると、七条通りは京都で一番

駅の多い通りになります。この数年の間に、京都芸大が、西京区大

原野から、七条通りの「一」南の塩小路に有る「崇仁小学校跡」に戻っ

て来ます。元々、京都美術工芸大

学Ⅱ通称「美大」が、西京区に移

転後「芸大」は、東山区に有ったのに、不便な西京区へなんて大丈

夫かいけないあと思っていたので

ヤッパリやと自

己判断に「チョイ

自信を持ちまし

た。まあ商売人

感覚で移転はし

ない方が良く

思っていたので

美大が東山区に有った頃、美大

生を酒屋時代の店の学生バイトで、

良く使った。面白い子や、チョッ

と変な子も多かった。写真は、当

時バイトに来ていた美大生数人に

店「シャッター」夜閉めても目

立つ面を条件付けて書いて貰った

ものの。夜が明るく楽しい気分

になると評判に。当時、シャッター

は防犯用、絵を書く発想が無く

今は派手な色で、当時は皆無で、新

聞話題になり、その後は、当たり

前になったが。

マア、芸大が戻り梅小路に、JR

新駅が出来。七条通りに住む人

や商人には喜ばしい事だ。どうせ



美大が東山区に有った頃、美大生を酒屋時代の店の学生バイトで、良く使った。面白い子や、チョッと変な子も多かった。写真は、当時バイトに来ていた美大生数人に店「シャッター」夜閉めても目立つ面を条件付けて書いて貰ったものの。夜が明るく楽しい気分になると評判に。当時、シャッターは防犯用、絵を書く発想が無く今は派手な色で、当時は皆無で、新聞話題になり、その後は、当たり前になったが。

市電が走った

京都を巡る

82

福田静二



岡崎公園前の停留場を

車した市電は、東大路通を南下します。車窓の左右は、どちらを見ても寺院ばかりで、一般の商家や民家はあまり見当たりません。京都でも珍しいところと言えます。この理由は、宝永五年(一七〇八)の京都の大火で、寺町通にあつた寺院が次々に移転してきたことによります。そのあとに移転してきた寺院もあり、付近は、寺院が密集する地域となります。赤穂義士の吉田忠左衛門や貝賀弥左衛門らの霊を合した墓のある本妙寺などがあります。



東山仁王門に到着した市電

まもなく到着するのが「東山仁王門」です。東西に伸びるのが仁王門通で、通りは東は幅員が広く、西へ行くと狭い道路となり、一見十字路交差点のように見えます。仁王門の名の由来は、通りに面した頂妙寺の堂々とした仁王門に由来すると言われています。

戦前までは、さらに東へ向かつて市電の路線が分岐していました。先号でも触れた市電の蹴上線で、東山仁王門から蹴上までの広軌複線の路線で、琵琶湖疏水沿いに路線が伸びていました。蹴上線は、京都電鉄木屋町・鴨東線として、内国勸業博覧会への乗客輸送を目的に明治二十八年に開業しました。

大正七年、市営電車が京都電鉄を買収、路線は市営に編入されました。大正十五年、東山仁王門から岡崎田勝寺町まで路線を新設し、終点の蹴上までは、広軌に改軌して、市電蹴上線としました。しかし昭和二十年二月、不要不急路線として、蹴上線は休止となり、資材は延長工事中の梅津線に転用されました。戦前の約二十年間だけ走った蹴上線だけに、残された資料・写真は極めて少ないのですが、沿線に住んでおられた方によりますと、途中、平安神宮前(慶流橋)、動物園前(広道橋)、南禅寺前と三万所の停留場があり、電車は線内のみの折り返し運転でした。車両は壬生車庫所属の広軌1型がおもに配車され、ラッシュ時三両、閑散時二両使用でした。

両側には寺院ばかりが続いた



戦後生まれの私は、蹴上線の思い出は持ち合わせていませんが、休止後のことは覚えていません。母親の実家が慶流橋の前にあり、家の前にレールは無いものの、敷石がずっと残っていました。祖父に聞くと昔、市電が走ってたやと教えるくれました。さらに東山仁王門にも、Y字形に敷石が残っていて、両方向から渡り線があつたことがわかります。蹴上線は前述のように昭和二十年に休止になりましたが、正式な廃止は昭和四十年です。これは、戦後しばらくの間、仁王門通の東寄りには貨物用の小さな木造ホームがあつて貨物電車が出入りしていたからです。現在でも、蹴上にある、琵琶湖疏水のインクライン沿いに、架線柱跡が数カ所で見られ、往時の蹴上線を偲んでいます。

何んだ坂 こんな坂

13

私の幼い時、夜一緒に寝て呉れたのは、祖母きぬでした。私が寝るまで、話を続けて呉れていて、随分と昔の事、馬関戦争や丹後？地震の事などが、今でも、私の記憶に残っている。

祖母きぬの生家は、下京区の呉服商の「等原家」。同家は、女の子は幼い時に全て、嫁入荷物の同様の支度をして、養女に出す仕来りに従い、山科の大農家で格式の高い「豪農王家」の養女になり、後、幼子の頃12歳？「王家」が没落、出入りの植木職人「氏」の宅で育てられ、小学校を四年卒業後、七条本町角▲「現サークル」の所に有った、酒販売と醤油醸造業「津之興・屋号」に奉公に出された。

祖父喜一郎は、明治中期、曾祖父迄住んで居た、宇治黄檗山、山奥の炭山「現宇治市」から、一家全員、京都に移り「東山区北斗町」住み、曾祖父は「橋小学校の小使さん用務員」で勤務。祖父は、近くの「醤油醸造と酒販売業 津之興」に勤めた。

所が「津之興」が、後継者の不始末で危機になり、商売用の母家「七条本町色売却し整理完了し、残った家当社東4軒目」で酒販売事業の後継は、祖父が引き受けた。そして、大正初年頃「きぬ」と結婚。三年後に、(わが父)一郎が生まれた。津之興にも男子幼児がいて、我が祖母が、お乳を与えていたそう。その幼児達は、50年程祖母が死ぬまで「自分の母」と同様の様に大事にして下さっていた。



※神馬(写真)

年の終わりに

月三

早いものですよ。十二月です。今年には気候がおかしくて、気温も寒くて暑かったけれど、メリハリがなく。日付を書く時なんかは、十二月なのに十月とか十一月だなんて書いて。手が間違えているのではな、思い込んで書いてしまう事も多、思いました。台風も変な時期にきましたね。夏場、今年はまだ来ないのかしらと思いきや、秋に大きいのが二つも来ました。秋にはあまりクシャミが出ない方でしたが、今年は春花粉の人たちでも反応する何かが飛んでいたようで、秋のクシャミ率も高かったです。いやいや、悪い事ばかりではありません。楽しいこともあったはず。でも人間アレですね。

真冬のワンダーランド

額額史子



今年のは冬の到来が早いようです。十二月のかなりです。真冬並みの寒さがやってきました。今年の冬は少し長いのでしょうか。もしかしたら、ロマンチックなホワイトクリスマスが、期待できるのかもしれない。東山出身のウクレレとギターデュオ「フラー」パッドは、今年、夏の夏にミュージシャンとしてのキャリアに、新しいページを開きました。今までは二人だけで、歌のないポップスを展開してきましたが、この夏に初めてベースやパーカッション、キーボードの入ったバンドで、歌のある曲を演奏するという、新しいスタイルを打ち出しました。今までの二人だけのシンプルサウンドから、バンドでの厚みのあるサウンドに変わり、さらにボーカルという新しい楽器が加わったことで、音楽の幅が広がり、今まで以上に、多くの人の心に届く楽曲を発信することが叶いました。この新しい音楽スタイルは、フラーパッドの二人にとつては驚きの世界。二人だけでは得られる、ワンダーランドを開拓とができた自由と、刺激に満ちあふれ、音楽と突き進んで行くのです。

楽しいことは忘れるわけではありませんが、臘といふかなんというか。思いつきで、もう夢でも見ているかのようになっています。あまは、主には正月モチーフをいたします。火曜・水曜の三時から五時まで。十二月は五・六・十二・十三・十九・二十・二十六・二十七日です。まずは体験からお気軽にどうぞ。(おしまい)十月二十三日〜二十四日の明け方にかけて台風がやってきましたね。二十一日の名前はラン、アルファベツトで「L」と書きます。暴風雨が強く、夜中は上空を風の音が駆け巡っていました。避難勧告も出たことを覚えてらっしゃいますか？台風になるまでも秋雨前線がやってきて雨続きだったため、折角咲いた秋の花が散ってしまったわな心配でなりま

編集後記

この月12月号(19号)です。当初は「まいど」の名で、酒屋の友人のグループ新聞で、発行を始めたのです。

が、夫々が、「国城の主ですが、後ろに怖い奥方がいらつしやう。主が、会議で決めてもダメ」が多くて解散しました。

新聞発行提案は、青年時「左翼」で有った私がしました。数年後、グループの結束が潰れ解散。私も「C.V.S.」アミマに業態変更しました。

は、ご来店の方に商品をお勧め、言わば「待ち」の仕事。然るも「店」の売る商品も本部指定のものが原則。自店の特徴が出せない。

私の店は、祖父の代から酒屋。姓に「酒」が付いている。酒だけでなく、自己主張と思つて、友の会をつくり、会員新聞「とんからりん」を出しました。集西楽も。

「とんからりん」は、2001年10月第1号は「ガリ版印刷」。今はP.Cで作成。印刷も自分で今号21号。左翼時代の、新聞や組織創りの経験が役立ちました。

只、残念ながら加齢で「記憶力」が落ち、今月号も一度仕上げアップしたのが、誤記入で訂正入替で、お断りしました。

お断り下さい。こんな事では駄目、来年三月で発行を終りにしよう。